

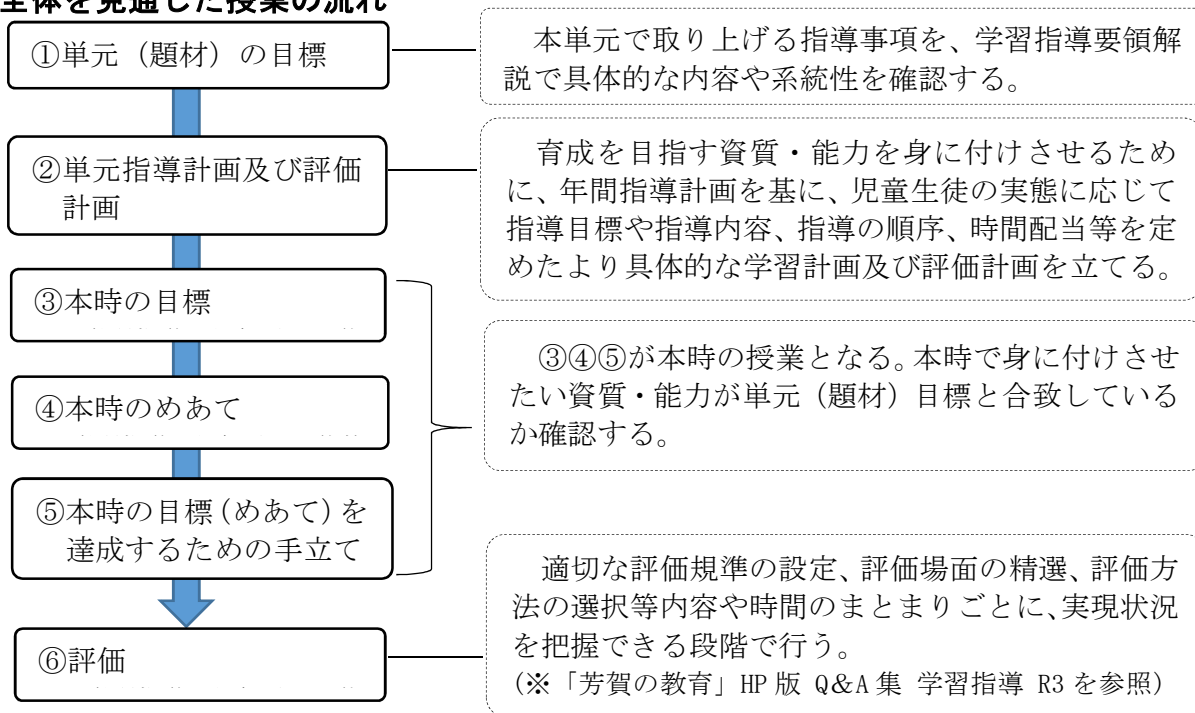
Q1： 単元（題材）全体を見通した授業づくりとは、どのようなものか。

A： 単元（題材）を通して身に付けさせたい力や、目指す児童生徒の具体的な姿を明確にした上で、学習内容や時間のまとまりを構成していくことである。

学習指導要領総則において明示されている主体的、対話的で深い学びは、必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではない。そのため、単元（題材）の内容や時間のまとまりを見通した授業の構想がきわめて重要である。また同時に、評価の場面や方法を工夫し、授業の改善と評価の改善を両輪として行っていくことの必要性も示されている。

以下に、単元指導計画の作成に当たっての基本的な考え方について説明する。

1 全体を見通した授業の流れ



2 単元指導計画及び評価計画を立てる

上図の②にあたる部分である。各教科において、本単元で育成を目指す資質・能力を踏まえた上で、学年ごとあるいは学級ごとなどに立てるより具体的な計画である。単元というまとまりの中で、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を目指し設定する。

〈単元指導計画及び評価計画の例 小学校5年国語「大造じいさんとがん」 8時間扱い〉

この単元では、C「読むこと」(1)エ「読むこと」において指導をする。人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることを目標とする。教科書では、「朗読する」という言語活動が示されているが、**学級の児童の実態に合っているかどうか考えてみる。**

「とちぎの子どもの「確かな学力」向上のために 授業改善プランー小学校国語ー」より一部抜粋

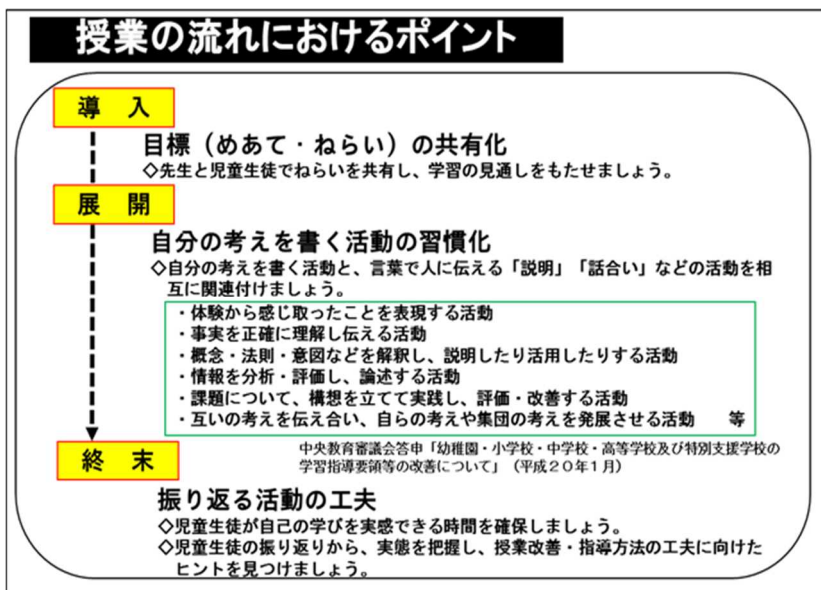
| 時 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価の観点 | | | 評価規準 |
|---|----------------------------------|--------------------------------------|-------|-----|----|--|
| | | | 知技 | 思判表 | 態度 | |
| 1 | これまでの学習を振り返り、本単元全体の学習について見通しをもつ。 | 既習を生かし、学習のゴールを明確にする。（「みりよく新聞」にまとめる。） | | | ○ | これまでに学習したことを振り返って学習課題を明確にし、学習の見通しを立てる。 |

| | | | | | |
|---|---|--|--|---|--|
| 2 | 場面の展開や描写を手がかりに、人物の心情の変化をとらえる。 | 読み取った内容を表にまとめる。心情曲線を活用するなど、登場人物の心情の変化を可視化する。 | | ○ | 表等を作成する目的を明確に押さえ、今後の学習において作成した表を生かし、表を基に思考する活動を設定する。 |
| 3 | | | | | |
| 4 | 情景が効果的に描かれた部分から人物の心情について考える。 | 表現の仕方に着目させ、言葉への気付きを促す。 | | ○ | 前時までの学習との関連を図り、単元を通して身に付けさせたい力の着実な定着に結び付ける。 |
| 5 | 情景描写が暗示する登場人物の心情を考える。 | 根拠となる叙述をどう解釈したのか、相互に意見交換をする場を設定する。 | | ○ | |
| 6 | 好きな場面を選び、大造じいさんの心情や場面の様子が伝わるように朗読する。 | 「優れた表現」という観点から好きな場面を選ばせる。 | | ○ | 単元全体を通じた学習の成果を確認し、今後の学習や生活に生かすよう意欲付けを行う。 |
| 7 | 印象に残った「優れた表現」について自分の考えを「みりよく新聞」にまとめ、共有する。 | 互いの共通点や相違点を共有し、自分の考えを深め広げられるようにする。 | | ○ | |
| 8 | 学習の振り返りを行う。 | | | | |

主体的に学習に取り組ませるために、単元の始めに学習の見通しを立てることも計画の一つである。例えば、「みりよく新聞」という単元を貫く言語活動を位置付けることで、途中の学習に必然性をもたせる方法も考えられる。朗読で表現しきれなかった部分を補い、評価の一助ともなり得る。単元を通し、学習したことを振り返り自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか、対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか、学びの深まりをつくりだすために、児童生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか等の視点で、1単元の授業を構想していくことが全体を見通した授業づくりであり、今後の授業改善として期待される。

3 本時の授業を行う

本時の目標（ねらい）、めあて、ゴールを設定する。指導に当たっては、1単位時間ごとの学びが単元や題材を通して身に付けさせたい力につながるよう意識しながら授業を実践していくことが求められる。



導入

児童生徒の体験と関連付けたり、学習内容を想起させたりするなどの工夫をする。

学習に見通しをもたせ、主体的に学ぶ態度の育成や、学習意欲の向上を図る。

展開

本時のゴールを目指し、一連の学習活動をねらいを実現するための具体的な手立てとして構成する。

終末

児童生徒が自分の学びを評価する。振り返る活動を通し、自分の学びの変容を自覚させる。

【参考資料】

- | | |
|-------------------------------------|--------------|
| ・小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 総則編 | H29. 7 文部科学省 |
| ・中学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 総則編 | H29. 7 文部科学省 |
| ・とちぎの子どもの「確かな学力」向上のために授業改善に向けた3つの視点 | H27. 11 県教委 |